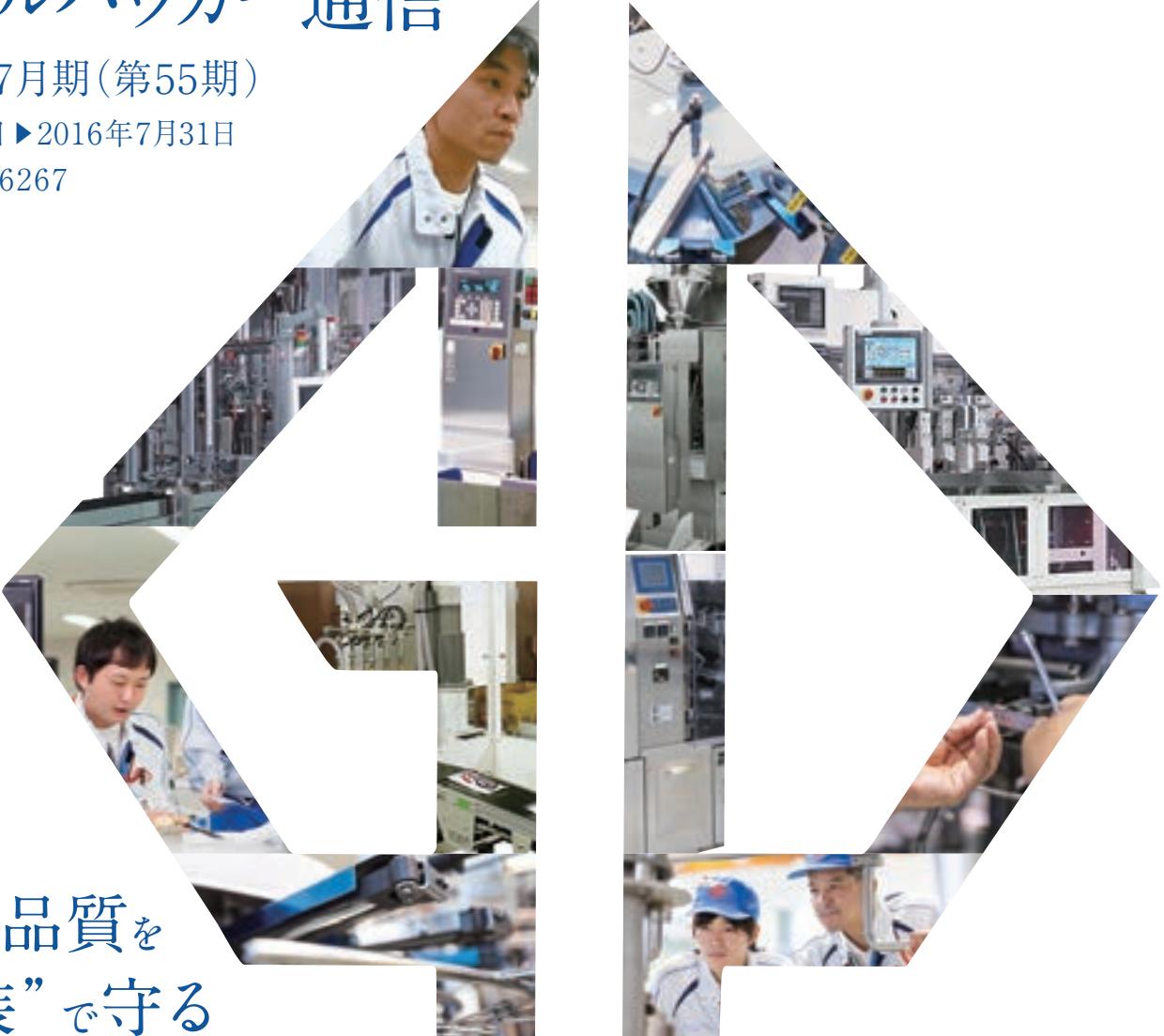


ゼネラルパッカー通信

平成28年7月期(第55期)

2015年8月1日▶2016年7月31日

証券コード：6267



世界の品質を
“包装”で守る



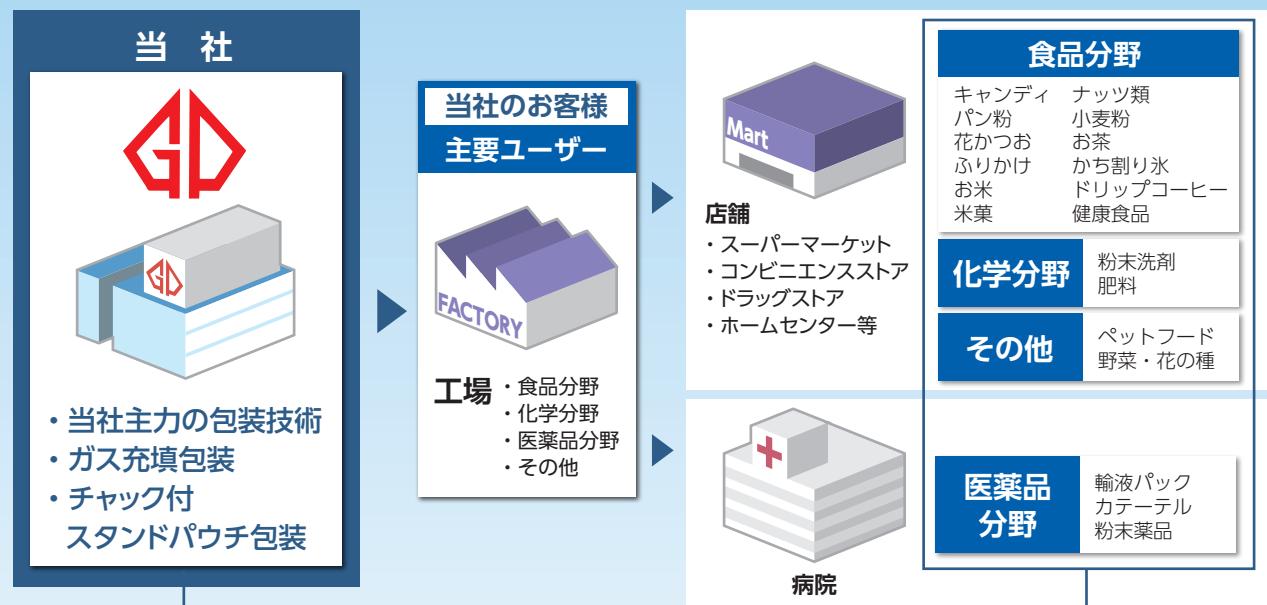
包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

■ 社 是 **創造と挑戦** — 感ずる、信ずる、行動する —

■ 経営理念 わが社はずねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。



魅力1 卓越した技術力

魅力2 優れた人材

新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち 1/3 が開発部および技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。

魅力3 既存分野での高いシェア

小麦粉、かつおパック、かけ割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。

▶ P9へ

魅力5 安定した株主還元

DOE 2%以上の安定配当を続けています。

▶ P5へ

第4次中期経営計画

■ 経営ビジョン

世界に飛躍する GP ブランド
One stop で応えるソリューションカンパニー
挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

海外市場での成長基盤構築へ

持続的成長に向けてグローバル企業を目指す

- 国内 安定的な売上高の確保**
- 顧客関係の深化、新機種の投入
 - ソリューションビジネスの拡大
- 海外 海外事業の強化**
- 中国・東南アジア市場の販売基盤の確立
 - 海外市場向けの商品拡大
- 海外市場**
- 世界20カ国
- ・中国
 - ・タイ
 - ・台湾
 - ・カナダ
 - ・フランス など

魅力4 新規分野・海外分野への成長

これから伸びが期待される医薬品・介護分野、また海外マーケットでの成長を続けています。

経営目標	第4次中計
売上高経常利益率	H29.7期目標 5.5%以上
ROA (総資産経常利益率)	5.5%以上
ROE (自己資本当期純利益率)	6.0%以上

業績目標	H29.7期目標
売上高	5,500百万円
営業利益	295百万円
経常利益	300百万円
当期純利益	200百万円

基本戦略

- 1 顧客関係の深化と新機種投入により、国内市場で安定的な売上高を維持する
- 2 海外事業を強化し、海外市場向けの売上高の大幅な伸長を目指す
- 3 顧客の期待にワンストップで応え、ソリューションビジネスの拡大を図る
- 4 競争力強化と海外市場開拓のための商品開発を推進する
- 5 顧客が安心して生産活動できる包装システムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
- 6 事業領域拡大のための M&A・アライアンスを推進する

中国・東南アジア市場の販売基盤を築き 海外市場の売上拡大を図ります。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。
ここに当社第55期（平成27年8月1日から平成28年7月31日まで）の営業状況をご報告し、中期経営計画に基づく取り組みをご説明させていただきます。ご一読の上、引き続き当社事業へのご理解とともに、さらなる成長にご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 **梅森 輝信**

当期の事業環境と営業活動の成果

包装機械業界は、国内設備投資が引き続き堅調を維持するとともに、平成27年度の輸出高も3年連続で過去最高を更新しており、一般的に好調に推移しました。業界全体の平成27年度の生産高は、4,000億円を超える見通しとなっています（日本包装機械工業会 生産高統計より）。

当社の業績においては、製袋自動包装機と大型包装システムの販売が減少したことにより、売上高は前期を下回りましたが、販売費及び一般管理費の抑制に努めた結果、利益面については増益を果たすことができました。なお期初の計画数値に対しては、売上・利益ともにこれを上回る成果となっています。

品目別の販売状況は、給袋自動包装機が前期に対して増加したものの、製袋自動包装機と包装関連機器が大幅に減少し、減収の主要因となりました。ただし保守消耗部品の販売増がカバーし、全体では計画を上回りました。エンドユーザーの業界別では、全体の約7割を占

事業計画モデル（第4次中期経営計画）

売上高（単位：百万円）

	H26.7期実績	H27.7期実績（期初計画比）	H28.7期実績（期初計画比）	H29.7期計画
国内市場（機械）	3,440 大型案件が集中	2,830 (▲69)	3,270 (+70)	3,300
海外市場（機械）	440	1,307 (+707) 大型案件の実績販売台数の増加	442 (▲358) 高額案件の減少一部翌期へ繰越	1,000
保守消耗部品	970	1,272 (+272) 高額保守の増加	1,331 (+331) 保守件数の増加	1,200 国内市場 横ばい 海外市場 増加
合計	4,850	5,411 (+911)	5,044 (+44)	5,500

める食品業界向けが減少しましたが、化学関連業界向けは、健康食品用の好調により、前期のほぼ倍まで販売を伸ばしました。

売上高を国内・海外の市場別に見ると、国内市場向けが前期比4億3千9百万円増（13.7%増）と拡大した一方で、海外市場向けは、前期にアジア地域で大型案件実績が集中した反動により、同8億6千5百万円減（61.8%減）となりました。そのため海外売上高比率は、前期の27.1%から11.1%に低下しました。

3か年中期経営計画の進捗状況

現在推進中の第4次中期経営計画（平成27年7月期～平成29年7月期）は、「持続的成長に向けてグローバル企業を目指す」を基本戦略に掲げ、海外事業の強化と、ソリューションビジネスの拡大に取り組んでいます。当期までの2年間は、売上高および経常利益の目標をクリアし、順調に進展しています。

海外事業の強化については、海外営業部の増員や、中国展開に向けて上海市に駐在員事務所を開所した前期に続き、当期は常熟市に子会社を設立し、新規販売チャネルの開拓として、台湾、タイ、インドネシアで4社と代理店契約を締結しました。今後は、米国やその他の国への開拓を進めつつ、海外展示会への出展を強化するとともに、欧米市場におけるペットフード用包装機の拡大を図ります。

ソリューションビジネスの拡大については、国内既存顧客への提案と、中国・台湾市場における新規顧客開拓に注力しています。引き続き高額システムの受注活動を強化し、実績を積み上げていきます。また平成28年9月に子会社化したチョコレート製造機械装置メーカー、オサ機械株式会社とのシナジーを活かし、ソリューションビジネスの拡大につなげていきます。

計画最終年度となる第56期の見通し

当社は、オサ機械株式会社の子会社化に伴い、第56期(平成29年7月期)から連結決算に移行します。

第4次中期経営計画の最終年度となる第56期の個別業績は、売上高55億円(当期比9.0%増)、営業利益2億9千8百万円(同10.1%減)、経常利益3億円(同9.8%減)、当期純利益2億円(同13.9%減)を予想しており、計画に掲げた業績目標通りであります。増収予想の前提として、機械受注残高の増加と国内・海外の積極的な受注活動による売上確保を見込み、費用面については、海外事業展開に係る諸費用や研究開発費の増加を想定しています。

なお連結決算の業績予想については、現在算定を進めており、予想数値の確定次第あらためて公表させていただきます。

株主の皆様へのメッセージ

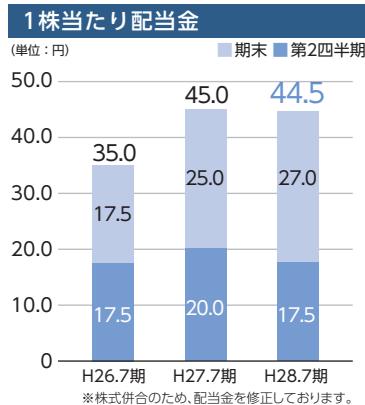
今回の期末配当は、期初の予想を上回る増益を反映し、1株当たり27円(計画比9円50銭増)とさせていただきました。中間配当は同3.5円を実施しましたが、平成28年2月1日付の株式併合(5:1)を考慮すると同17円50銭となり、これを合せた実質的な年間配当金は、同44円50銭となっています。

第56期は、中間配当・期末配当ともに1株当たり20円、年間配当額同40円を予定しています。中期経営計画3年間の総仕上げとして、中国・東南アジア市場における販売基盤づくりを着実に進め、売上拡大につなげてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社事業の将来にご期待いただき、継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向 50%または純資産配当率(DOE) 2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。



中国 第2弾

中期経営計画の重点テーマの一つである「海外事業の強化」を進めていくには、世界最大の消費地である中国の攻略を避けて通れません。当社は、初の海外子会社を江蘇省常熟市に設立。いよいよ中国市場への展開を加速していきます。



「蘇州日技通用包装機械有限公司」を設立

中国市場の開拓をさらに強化

自動包装機械・荷造用機械事業の中国展開を推進すべく、平成28年3月、江蘇省常熟市に100%出資による子会社として「蘇州日技通用包装機械有限公司」を設立しました。同社を通じて、中国市場における当社の存在感を高め、販売基盤の確立を図るとともに、現地生産・アフターサービス体制の確立を目指します。



POINT

- ▶ **日本のビジネスモデルで展開**
当社初の海外子会社となる蘇州日技通用包装機械では、現地での外注組立や調達を図りながら、日本で実施しているビジネスモデルを水平展開していきます。
- ▶ **万全のアフターサービスを提供**
保守・整備などアフターサービス面の充実、現地販売拡大の重要なカギです。万全の体制によるサービス提供で、中国市場における当社への信頼を高めます。

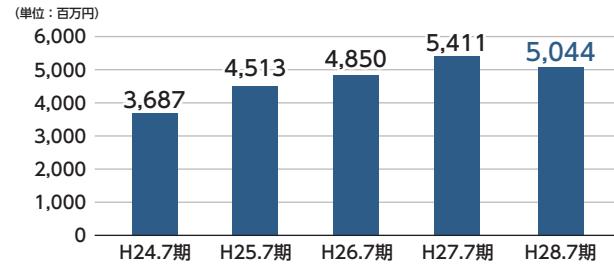
TOPICS ソリューションビジネスのさらなる拡大

オサ機械株式会社を子会社化

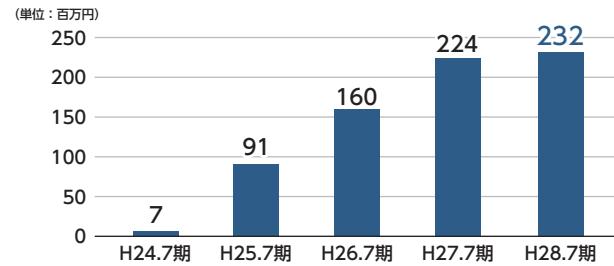
平成28年9月、当社はチョコレート製造機械装置メーカー、オサ機械株式会社の全株式を取得し、完全子会社化しました。1932年創業のオサ機械株式会社は、「カカオ豆の焙煎機から包装機の前まで」のチョコレート製造にかかわる全行程の機械を取り扱う専門メーカーとして、日本国内で高いシェアを占めています。

当社とオサ機械株式会社は、密接に関連し合う領域で事業を展開してきました。今後は、両者が保有する技術力・ネットワークを融合し、最大限に活用することで、当社が目指すソリューションビジネスの拡大につなげ、グループとしての発展を目指していきます。

売上高



当期純利益



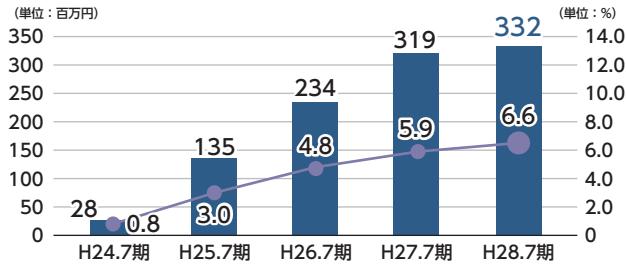
経営成績に関する定性的情報

当期におけるわが国経済は、底堅い動きであった個人消費に停滞感が見られたものの、雇用・所得環境や企業収益については改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

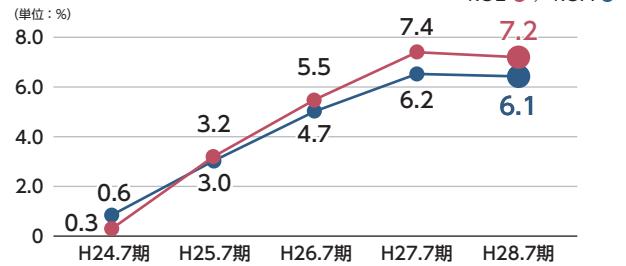
このような状況のなか、当社は海外事業の強化、ソリューションビジネスの拡大に取り組んでまいりました。

当期の売上高につきましては、既存顧客企業の設備投資需要の増加により、給袋自動包装機の販売台数が増加したものの、製袋自動包装機及び大型

経常利益 / 売上高経常利益率



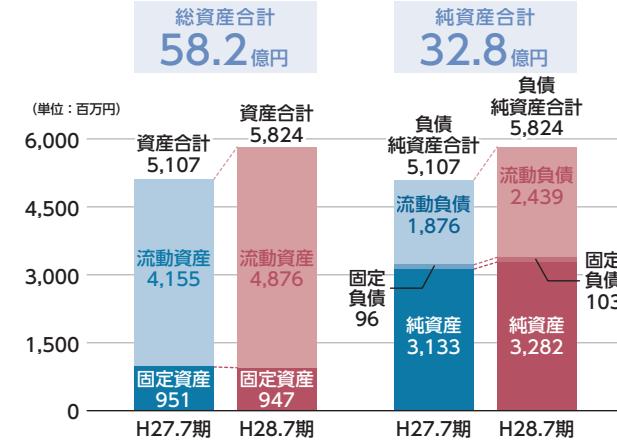
ROE / ROA



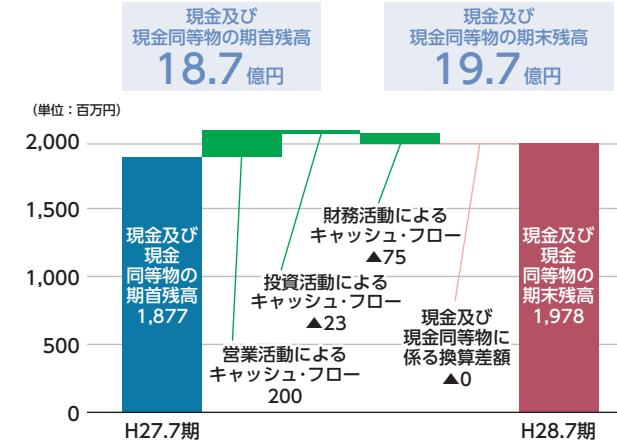
包装システムの販売実績が大きく減少したことから、前期に対し366百万円の減収となりました。

収益面につきましては、減収に伴い売上総利益は減少したものの、売上総利益の減少額以上に販売費及び一般管理費が抑制できたことから、営業利益及び経常利益並びに当期純利益は前期に対し増益となりました。

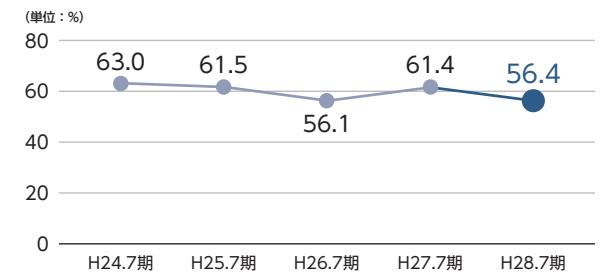
財務状況



キャッシュ・フローの推移



自己資本比率



財務分析

当期における流動資産は、売上債権及びファクタリング方式により譲渡した売上債権の未収額の合計額が 539 百万円増加したこと等により前期に比べて 721 百万円増加いたしました。流動負債は、仕入債務が 555 百万円増加したこと等により前期に比べて 562 百万円増加いたしました。

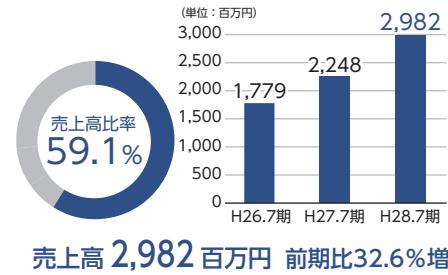
キャッシュ・フロー分析

営業活動の結果獲得した資金は 200 百万円となりました。収入の主な内訳は、仕入債務の増加額 555 百万円、税引前当期純利益 332 百万円等であり、支出の主な内訳は、売上債権の増加額 551 百万円、たな卸資産の増加額 180 百万円等であります。投資活動の結果使用した資金は、関係会社出資金の払込による支出 50 百万円、有形固定資産の取得による支出 29 百万円等により 23 百万円となりました。

給袋自動包装機 (ガス充填自動包装機含む)



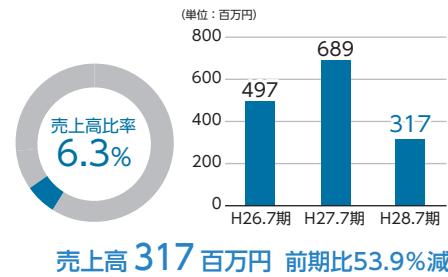
給袋自動包装機は、販売台数が前期より増加したことから、売上高は2,982百万円(前期比32.6%増)となりました。



製袋自動包装機



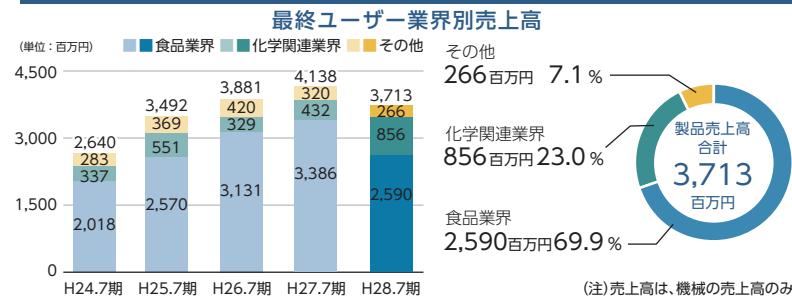
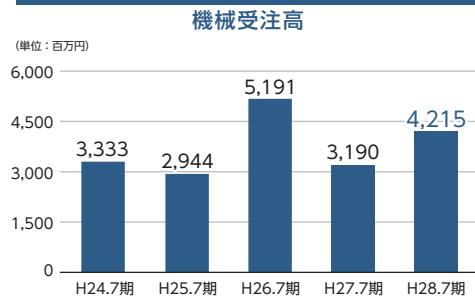
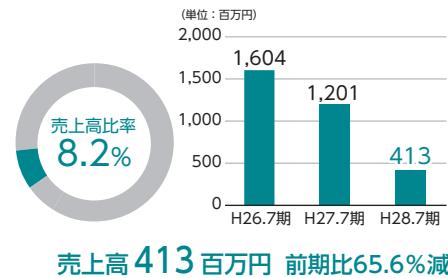
製袋自動包装機は、販売台数が前期より減少したことから、売上高は317百万円(前期比53.9%減)となりました。



包装関連機器等



包装関連機器等は、大型包装システムの販売実績が前期より減少したことから、売上高は413百万円(前期比65.6%減)となりました。



会社概要 (平成28年7月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	昭和41年2月(創業 昭和36年12月)
資本金	2億5,157万7千円

事業内容 各種自動包装機・荷造用機械及び周辺装置の製造・販売・修理、それに附随する一切の業務

従業員数 135名

本社・工場 〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel.(0568)23-3111(代)
Fax.(0568)22-3222



東京営業部 〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel.(03)3256-3891(代)
Fax.(03)3256-3893



取締役及び監査役 (平成28年10月25日現在)

代表取締役社長	梅森輝信	
専務取締役	小関幸太郎	管理部 兼 資材部担当
常務取締役	鈴木完繁	
取締役	牧野研二	開発部 兼 技術部 兼 生産部担当
取締役	尾関津義	営業本部長 兼 システムソリューション部担当
取締役	井土信行	
常勤監査役	福井義雄	
監査役	村橋泰志	
監査役	浅井一郎	

株式の状況 (平成28年7月31日現在)

発行可能株式総数	5,600,000株
発行済株式総数	1,798,800株
株主数	538名

大株主 (平成28年7月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社ワイ・イー・データ	270,000	15.20
ゼネラルパッカー従業員持株会	256,200	14.42
株式会社りそな銀行	78,400	4.41
高野 季久美	72,800	4.10
田中 かな	72,800	4.10
ゼネラルパッカー取引先持株会	72,700	4.09
原 紳二郎	70,012	3.94
原 晋一郎	52,588	2.96
梅森 輝信	52,000	2.93
島末 孝法	39,200	2.21

株主数構成比



個人・その他	498名	92.56%
その他法人	22名	4.09%
証券会社	10名	1.86%
金融機関	5名	0.93%
外国人	2名	0.37%
自己名義	1名	0.19%

株式数構成比



個人・その他	1,312,432株	72.96%
その他法人	335,680株	18.66%
金融機関	96,100株	5.34%
自己名義	21,469株	1.19%
外国人	17,200株	0.96%
証券会社	15,919株	0.89%

IR サイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

http://www.general-packer.co.jp/ir_index.html

企業ホームページ
最優秀サイト

日興アイ・アール
新興市場ランキング

5年連続受賞

主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR 情報などをご覧いただけます。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。

1. 決算説明会
2. IR カレンダー
3. 個人投資家の皆様へ

お勧め情報 ランキング

IR サイトの中から株主や投資家の皆さまのお役に立つ、当社お勧めの情報をランキング形式で紹介いたします。(不定期更新)



個人投資家の皆様へ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。



▲トップページ

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp/>

各種手続きのお申出先

- ・未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- ・住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

包装システムのトータルプランナー
ゼネラルパッカー株式会社

●本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222
●東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

UD
FONT

ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C022915

VEGETABLE
OIL INK